

E-47 近代家政経営のための家計簿研究 その1: 家計の現状と生活設計に
関する意識分析 一家計簿記帳とその改善— (第2報)

長谷川知一(東海学園女子短大) ○ 河口智政(山田家政短大)
武長脩行(慶応大学大学院経) ○ 安藤文子(愛知女子短大)
田尻寧子(金城学院大) カ 富あま(山田家政短大) 武藤富美子(名古屋短大)

目的: 第1報に引き続き、第2報では、家庭経営上家計簿がどのように利用されているかの現状把握を中心に調査を試み、まず家計簿の記帳率を探り、次に記帳者を中心に家計簿記帳の意義、現在使用している家計簿の評価、改善すべき点、キャッシュレス時代との関係等について調査した。

方法: 第1報に同じ。

結果: 家計簿は約半数の家庭で記帳されている。記帳目的としては、「支出の反省」「価格の記録」が多い。家計簿をつけない人の理由は、「めんどく」「つける必要性を感じない」が多い。記帳者は、現状の家計簿に対して、あまり不便を感じていない、そのまゝ使用しているようである。しかし、新たに改善されるならば、「記帳がしやすく、だいたいの指標が得られるもの」を求めている。同時にキャッシュレス時代が今後進行するにつれて、家計簿の果たす役割も変質し、それに対応できるような家計簿が望まれる。